様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　６ 月 ２３ 日現在

機関番号：１１３０１
研究種目：基盤研究(A)（一般）
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｈ０１９１３

研究課題名（和文）仏像の表象機能に関わる総合的調査研究―空間・荘厳・胎内に着目して

研究課題名（英文）Comprehensive research on the representational function of Buddha statues: Focusing on Space, Decoration, and Internal

研究代表者
有賀　祥隆（Ariga, Yoshitaka）

東北大学・文学研究科・名誉教授

研究者番号：２０１３３６１３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　30,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、「生身」と「霊験」という仏像の宗教的意味を踏まえながら、「仏像の表象機能」をあきらかにする目的でおこなわれた。その目的のため、（1）仏像の所在地、（2）荘厳、（3）胎内という三つの観点を重視し、これらに関わりの深い仏像を選定して詳細な調査をおこなった。その結果、4カ年の総計として、寺院・神社は20ヶ所で仏像69躯・仏像以外物件4箇を、公共機関は7ヶ所で仏像10躯を、個人コレクションは1ヶ所で仏像1躯を調査した。以上の調査対象について、詳細な調査報告と画像を掲載した冊子体の研究成果報告書を刊行し、関係機関、関係研究者へと送付し、研究成果公開をおこなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究による仏像調査のうち、特に成果があった事例をあげる。岩手中尊寺千手観音立像はＸ線撮影調査により不明だった構造および当初部分の把握がおこなわれた。長野鳩ヶ嶺八幡宮誉田別尊像は、従来知られていなかった像の具体的情報があきらかになった。栃木住林寺諸像は、詳細なデータと画像を新たに得た。東京八丈島町宗福寺大日如来坐像・仏師民部作釈迦如来坐像は、詳細なデータと画像を新たに得た。京都太子堂白毫寺諸像を新たに調査した。広島尾道の常称寺真教坐像及び浄土寺聖徳太子像三躯を新たに調査した。また研究成果報告書を刊行し、基礎資料を広く学界と社会に公開した。ほか、刊行物ならびに各種展覧会に写真提供をおこなった。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this reseach was to clarify the "Representative function of the Buddha statues" while taking into consideration the religious meanings of the Buddha statues, as "living Buddha" and "Holy miracle." For that purpose, we focused on the three viewpoints of (1) the location of the Buddha statues, (2) the Decoration, and (3) the Internal of statues, and conducted a thorough survey by selecting Buddha statues that are closely related. As a result, in four years, we surveyed the 69 statues and 4 objects in 20 temples/shrines, 10 statues in 7 public institutions, 1 statue in personal collection. And we published a research result report in the form of a booklet containing detailed research reports and images, and sent it to related organizations and researchers to open the research results.

研究分野：日本美術史

キーワード：彫刻史　仏像　荘厳　生身　鳩ヶ嶺八幡宮　八丈島　白毫寺　浄土寺

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

1. 研究開始当初の背景

本研究グループは、本研究を開始するまで、1996 年以来以下の研究をおこなってきた。
①基盤研究（A）（１）「中尊寺を中心とする奥州藤原文化圏の美術工芸品に関する総合的調査研究」（1996～1998 年度）
②基盤研究（A）（１）「中尊寺を中心とする奥州藤原文化圏の宗教彫像に関する調査研究」（2000～2002 年度）
③基盤研究（A）「奥州仏教文化圏に遺る宗教彫像の基礎的調査研究」（2003～2005 年度）
④基盤研究（A）「東日本に分布する宗教彫像の基礎的調査研究―古代から中世への変容を軸に」（2006～2008 年度）
⑤基盤研究（A）「生身と霊験―宗教的意味を踏まえた仏像の基礎的調査研究」（2011～2013 年度）

この研究課題の変遷が示すように、本研究グループの研究は、当初は仏像の基礎調査を主目的として遂行された。そして、⑤の研究において、仏像の宗教的意味を重視する研究へと目的と方法を展開させた。本研究、⑥基盤研究（A）「仏像の表象機能に関わる総合的調査研究―空間・荘厳・胎内に着目して」（2016～2019 年度）は、この目的と方法を継承し、仏像の「表象機能」を重視する観点を新たに設定して開始された。

2. 研究の目的

これまでの研究を承け、本研究が重視した観点は次の二つである。

A．「生身」と「霊験」

「生身」と「霊験」という二つの概念は、仏像が信仰者と関わる二つの本質的な側面を明らかにする。まず「生身」とは、「法身」と対になる仏教語で、現世に生じた仏身を意味する。したがって、この言葉自体は仏像そのものを指す概念ではない。仏像を生身仏とみる宗教観は、日本においては遅くとも奈良時代には成立し、平安後期以降に顕在化する。鎌倉時代以降は、その意識に基づいた仏像が多く造られ始めた。この考え方が適用されると、仏像には現世に存在するという宗教的な意味が具わる。一方、「霊験」は、仏が信仰者に対し示す奇跡である。したがって、「霊験」は仏像が果たす機能に関わる概念である。特定の仏像に霊験を期待する観念も、やはり奈良時代の終わりから生じ（大安寺釈迦）、特に観音像に対しては明確に意識された（長谷寺、壺阪寺）。

以降、日本ではこの二つの概念に沿う仏像が様々なありようの中で造られていった。清涼寺釈迦、善光寺阿弥陀は、格別な由緒と特有な図像を具えることで生身仏とされた仏像であり、長谷寺や石山寺の観音像は、補陀落山に見立てられた寺の仏像として霊験仏となっていった。また、歯吹き阿弥陀と呼ばれる一群の仏像は、三十二相を付与されることで生身仏に見立てられた。本研究グループは、多年にわたる研究の過程で、この概念に関わる多数の仏像を調査し、技法上の特色を解明した。それを通じ、この二概念が仏像の造形的特色を理解する上で不可欠のものであることを明らかにした。近年、「生身仏」が日本彫刻史研究の主要テーマとなっているのは、本研究グループの研究成果に依るところが大きい。

B．仏像の表象機能

仏像に付与される「生身」という意味、仏像が示す「霊験」は、いずれも仏像の表象機能に包摂される問題である。本研究では、これまでの研究を継承し、それを展開させるた

めに、この「表象機能」という観点を新たに設定した。この問題の考究には、次のような柱が想定される。

（1）世界観

「生身仏」という意味が顕在化するのは、「他界―現世」に二元化される世界が想定されている時である。ここから、その仏像が作られるに当たって意識されている世界観に留意する必要が生まれる。

（2）人間の行為

霊験とは仏が信仰者に示す奇跡だが、霊験が起きるには信仰者の側の行為がまず前提となる。仏像の表象機能を考えるためには、それぞれの事例において想定されている人間の行為にも留意する必要がある。

（3）祈願

信仰者は仏像に対してどのような祈願を抱いているのかが重要な観点となる。仏像はそのような祈願に応えるように造形化されるからである。

3. 研究の方法

本研究は、以上の観点を踏まえながら、仏像の果たした「表象機能」を具体的に解明するために、個々の仏像の調査を主たる活動として遂行された。仏像調査は、以下の条件を重視しておこなわれた。

（1）仏像の所在地

仏像の所在地を重視し、調査対象とする仏像を選定した。仏像の所在自体がその地域の信仰を反映していると考えたためである。仏像を通して想定できる各地の信仰圏を意識しつつ、その地域に所在する仏像を調査した。個々の仏像は、その地域の信仰と歴史の具体的な反映であり物証である。

（2）荘厳

本研究で想定した仏像の「荘厳」とは、仏像を造り上げる作業の総体である。木彫像には、木造り、仕上げ（素地・彩色・漆箔）、台座・光背・厨子の付設、堂内装飾（天蓋や壁画）の実現という作業がある。それらのうち、例えば雲座や岩座という台座や雲を表す光背などが、仏像の居場所を表象していることは容易に理解できよう。

（3）胎内

仏像の胎内を仕上げ、納入品を納めることは、外部とは区別される意味を胎内に与えることである。例えば、興福寺北円堂弥勒如来像の内部に弥勒菩薩像を納めた厨子が納入され、生身とされた広隆寺上宮王院聖徳太子像は、金色に荘厳された胎内に聖徳太子の本地救世観音や元の姿である勝鬘夫人・慧思を描いた心月輪が納入されているのは、それぞれ「弥勒如来が兜率天より降臨した」あるいは「聖徳太子が三者の化身である」という意味を、胎内を浄土や前世といった他界に擬して表現しようとする工夫である。さらに、胎内に納められた願文は、仏像への祈願を具体的に知る直接的な手がかりとなる。このように、仏像の胎内は、仏像の「表象機能」を考えるための最重要の部位ということができる。

以上の条件を踏まえ、これらに関わりの深い仏像を選定して詳細な調査をおこなった。

4. 研究成果

本研究では、次の調査地・調査件数・員数の調査をおこなった（同一機関でも調査対象、年度が異なれば一箇所として数え、また調査箇所で寺社所蔵の仏像・神像が美術館・博物

館に寄託されている場合は公共機関として数えている）。
2016 年度：寺院（8 ヶ所、20 件 23 躯 3 箇）、公共機関（2 ヶ所、4 件 4 躯）
2017 年度：寺院・神社（5 ヶ所、8 件 8 躯）、公共機関（1 ヶ所、2 件 2 躯）
2018 年度：寺院・神社（4 ヶ所、15 件 21 躯 1 箇）、公共機関（3 ヶ所、3 件 3 躯）
2019 年度：寺院（3 ヶ所、7 件 17 躯）、公共機関（1 ヶ所、1 件 1 躯）、個人（1 ヶ所、1 件 1 躯）
　以上により、４カ年の総計は、次の通りとなった。
寺院・神社：20 ヶ所・50 件 69 躯 4 箇、公共機関：7 ヶ所・10 件 10 躯、個人：1 ヶ所・1 件 1 躯。本研究における調査活動の具体的内容は、以下の通りである。

２０１６年度

6 月 15 日　茨城薬王院　釈迦如来坐像
6 月 25 日　京都金剛心院　不動明王立像一躯・地蔵菩薩坐像一躯・伝忍性像（＊）一躯・理源大師像（＊）一躯・役行者像（＊）一躯・伝忍性使用鉄鉢・袈裟（＊）・制札（＊）三／京都長徳寺　　阿弥陀如来立像（＊）一躯
７月 16・17 日　京都太子堂白毫寺　大日如来坐像一躯・如意輪観音坐像一躯・聖徳太子立像一躯・菩薩形像（＊）一躯
11 月 12 日　日野市立新選組のふるさと歴史館　東京八幡神社阿弥陀如来坐像一躯
11 月 19・20 日　岩手達谷窟毘沙門堂　毘沙門天立像一躯・聖観音菩薩立像一躯／岩手達谷窟西光寺　十一面観音場菩薩立像一躯・薬師如来坐像一躯・大日如来坐像一躯
12 月 3・4・5 日　神奈川県立金沢文庫　　神奈川極楽寺釈迦如来立像一躯・薬師如来坐像一躯・文殊菩薩坐像一躯
2 月 20・21 日　栃木住林寺　　阿弥陀如来坐像一躯・観音菩薩立像一躯・地蔵菩薩立像一躯・不動明王立像一躯・毘沙門天立像一躯
3 月 7 日　広島常称寺　真教坐像一躯・阿弥陀如来立像一躯

２０１７年度

7 月 29 日　岩手中尊寺讃衡蔵　千手観音立像一躯
9 月 8・9 日　滋賀浄厳院　釈迦如来立像一躯
9 月 19・20 日　長野鳩ヶ嶺八幡宮　誉田別命坐像一躯・息長足姫坐像一躯・男神坐像一躯
9 月 25 日　高知宗安寺　不動明王坐像一躯
10 月 4 日　栃木県立博物館　茨城岩谷寺薬師如来立像一躯・栃木木幡神社馬頭観音坐像（＊）一躯

２０１８年度

4 月 28・29 日　神奈川県立金沢文庫　埼玉保寧寺阿弥陀如来坐像及び両脇侍像　三躯・個人蔵不動明王坐像一躯
8 月 6 日　奈良如意輪寺　蔵王権現立像（＊）一躯・厨子一基
9 月 14 日　奈良国立博物館　滋賀長命寺地蔵菩薩立像一躯
9 月 23・24 日　神奈川県立金沢文庫　宮城天王寺如意輪観音坐像一躯・四天王立像四躯
11 月 17 日　宮城日吉山王神社　獅子・狛犬二躯・神馬（＊）一躯・三猿（＊）三躯・釈迦如来坐像（＊）一躯・地蔵菩薩立像（＊）一躯
2 月 19・20・21 日　広島浄土寺　聖徳太子立像三躯・釈迦如来坐像一躯・厨子（＊）一基

3 月 23・24 日　東京・宗福寺　大日如来坐像一躯・釈迦如来坐像一躯

２０１９年度

7 月 27 日　宮城満徳寺　千手観音菩薩立像（＊）一躯／個人宅　一件一躯

9 月 24 日　一関市博物館　岩手東川院観音菩薩坐像一躯

12 月 7・8 日　栃木輪王寺　昌源上人坐像（＊）一躯・菩薩立像（＊）一躯

12 月 14 日　茨城慈雲寺　地蔵菩薩坐像（＊）一躯・十王像（＊）十躯・奪衣婆像（＊）一躯・俗形像（＊）二躯

以上の調査対象について詳細な調査報告と画像を掲載した冊子体の研究成果報告書を刊行した。ただし、（＊）を付した物件は、諸事情により研究成果報告書には掲載していない。研究成果報告書は、関係機関、関係研究者へと送付し、研究成果公開をおこなった。

調査地域としては、東北（岩手、宮城）、関東・甲信越（栃木、茨城、東京、神奈川、長野）、関西（滋賀、京都、奈良）、中国地方（広島）、四国（高知）など広範囲に及んだ。

本研究においておこなった仏像調査のうち、特筆される成果としては次の事例があげられる。まず、東北地方では岩手中尊寺の千手観音立像について、新たにＸ線撮影による調査をおこなった。従来同像の構造の詳細は知られていなかったが、今回の調査を通し構造および当初部分の把握がおこなわれた。関東・甲信越では、従来詳しい情報が知られていなかった、長野・鳩ヶ嶺八幡宮誉田別尊像を新たに調査することができた。また、栃木・住林寺の諸像についても、詳細なデータと画像を得られた。さらに、東京・八丈島町の宗福寺において、肥後定慶風の作風を示す大日如来坐像、流人の仏師民部の作になる釈迦如来坐像という重要な二体の仏像を調査し得た。関西では特に、京都・太子堂白毫寺の諸像を調査したことが大きな成果となった。この成果は、神奈川県立金沢文庫の特別展「忍性菩薩―関東興律七五〇年」において活かされた。中国地方では、尾道の常称寺、浄土寺という重要な二ヶ寺で調査をおこない、常称寺では真教坐像を、浄土寺では三躯も伝わる聖徳太子像を調査した。このうち、浄土寺での成果は、神奈川県立金沢文庫の特別展「聖徳太子信仰―鎌倉仏教の基層と尾道浄土寺の名宝―」において活用された。四国では、高知・宗安寺において、新たに不動明王坐像の優作を調査することできた。

また、本研究で調査した以下の物件は、刊行物への掲載、展覧会のための写真提供を通じて、社会貢献を果たしているので付記する。

〇刊行物掲載：水野敬三郎他編『日本彫刻史基礎資料集成』鎌倉時代造像銘記篇十四　中央公論美術出版　平成三十年二月

長野・鳩ヶ嶺八幡宮　誉田別尊像

〇写真提供：①東京国立博物館　特別展「文化財よ、永遠に」（2019 年 10 月 1 日―12 月 1 日）　埼玉保寧寺　阿弥陀三尊像

②神奈川県立金沢文庫　特別展「忍性菩薩―関東興律七五〇年」（2016 年 10 月 28 日―12 月 18 日）　京都金剛心院　鉄鉢　袈裟・茨城薬王院　釈迦如来坐像・京都太子堂白毫寺聖徳太子立像

③神奈川県立金沢文庫　特別展「聖徳太子信仰―鎌倉仏教の基層と尾道浄土寺の名宝―」（2019 年 9 月 21 日―11 月 17 日）　広島浄土寺　聖徳太子立像（孝養像・南無仏・真俗二諦）

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計27件（うち査読付論文　11件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 山本勉、花澤明優美	４．巻 41号
２．論文標題 目黒・祐天寺仁王門二天王像考	５．発行年 2020年
３．雑誌名 清泉女子大学人文科学研究所紀要	６．最初と最後の頁 41-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 武笠朗	４．巻 34号
２．論文標題 仏師長勢―円派仏師研究（一）―	５．発行年 2020年
３．雑誌名 実践女子大学美学美術史学	６．最初と最後の頁 17-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 武笠朗	４．巻 142号
２．論文標題 〈仏師と仏像を訪ねて〉隆円	５．発行年 2019年
３．雑誌名 本郷	６．最初と最後の頁 22-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 岩佐光晴	４．巻 22
２．論文標題 創建期長谷寺の十一面観音像に関する覚書	５．発行年 2020年
３．雑誌名 美學美術史論集	６．最初と最後の頁 95‐123
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 岩佐光晴	4．巻 679
2．論文標題 クスノキ製木彫像をめぐって	5．発行年 2019年
3．雑誌名 MUSEUM	6．最初と最後の頁 51‐60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 川瀬由照	4．巻 97号
2．論文標題 金峯山寺蔵王堂蔵王権現像と下御門仏師	5．発行年 2019年
3．雑誌名 修験道	6．最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 川瀬由照	4．巻 97号
2．論文標題 文化財行政と修理	5．発行年 2019年
3．雑誌名 蓮華	6．最初と最後の頁 38-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 杉本欣久	4．巻 第２号
2．論文標題 鈴木芙蓉「富士那智図」と渡辺崋山「千山万水図」ー観念と真景のあいだー	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日本近世美術研究	6．最初と最後の頁 43-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 三浦敬任	4．巻 41号
2．論文標題 佐竹本三十六歌仙絵「住吉大明神断簡」考―その図様と詞書について―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 美術史学	6．最初と最後の頁 21-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 三浦敬任	4．巻 第36号別冊
2．論文標題 中世歌仙絵の諸相―「似絵」風表現と歌仙絵受容者の考察―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 鹿島美術研究年報	6．最初と最後の頁 44-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 武笠朗	4．巻 141号
2．論文標題 仏師と仏像を訪ねて　院範	5．発行年 2019年
3．雑誌名 本郷	6．最初と最後の頁 22-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 岩佐光晴	4．巻 675
2．論文標題 櫟野寺諸像の樹種（考察編）	5．発行年 2018年
3．雑誌名 MUSEUM	6．最初と最後の頁 89-93
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 川瀬由照	4．巻 1476
2．論文標題 下御門仏師と金峯山寺蔵王堂蔵王権現立像、安倍文殊院住吉明神立像について	5．発行年 2018年
3．雑誌名 國華	6．最初と最後の頁 46-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 杉本欣久	4．巻 1
2．論文標題 東叡山寛永寺の絵師・関良雪と輪王寺門跡・公遵法親王、神道家・依田貞鎮ー「安楽律騒動」の渦中で生きた画家ー	5．発行年 2018年
3．雑誌名 日本近世美術研究	6．最初と最後の頁 21-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 杉本欣久	4．巻 40
2．論文標題 小泉檀山の基礎資料についてー立原翠軒『上京日録』と狩野文庫本『檀山先生門人姓名録』を中心にー	5．発行年 2018年
3．雑誌名 美術史学	6．最初と最後の頁 21-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 津田徹英	4．巻 426
2．論文標題 滋賀・浄厳院蔵 木造釈迦如来立像―佐々木氏頼（1326～70）発願の旧慈恩寺本尊―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 美術研究	6．最初と最後の頁 93-110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 長岡龍作	4．巻 0
2．論文標題 奈良時代東大寺における「天」の意義と造形	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『東大寺の新研究　第三巻　東大寺の思想と文化』（法藏館）	6．最初と最後の頁 185-225
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 長岡龍作	4．巻 0
2．論文標題 感応と図様―仁寿舎利塔に見る表象形式と思想	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『アジア仏教美術論集　東アジアⅡ（隋・唐）』（中央公論美術出版）	6．最初と最後の頁 255-288
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 山本勉・小野佳代	4．巻 667
2．論文標題 愛知県春日井市・退休寺の久安二年銘阿弥陀如来坐像	5．発行年 2017年
3．雑誌名 MUSEUM	6．最初と最後の頁 pp.49-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 山本勉	4．巻 84巻12号
2．論文標題 運慶作品認定の軌跡	5．発行年 2018年
3．雑誌名 大法輪	6．最初と最後の頁 pp.44-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 武笠朗	4．巻 32号
2．論文標題 蓮華王院長寛造像の研究（二）	5．発行年 2018年
3．雑誌名 実践女子大学美学美術史学	6．最初と最後の頁 pp.1-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 武笠朗	4．巻 60集
2．論文標題 院政期中央造像の様式展開	5．発行年 2018年
3．雑誌名 実践女子大学文学部紀要	6．最初と最後の頁 pp.1-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 津田徹英	4．巻 5号
2．論文標題 延暦寺根本中堂安置の薬師如来像の尊容をめぐる覚書―無動寺蔵・叡山文庫保管「山門根本中堂本尊事」の翻刻によせて―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 パラゴーネ	6．最初と最後の頁 pp.55-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 泉武夫	4．巻 39号
2．論文標題 中世尺八の肖像―朗庵像をめぐって―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 美術史学	6．最初と最後の頁 pp.1-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 有賀祥隆	4．巻 1454
2．論文標題 （香川道隆寺木造天部立像）彩色文様について	5．発行年 2016年
3．雑誌名 国華	6．最初と最後の頁 18-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 岩佐光晴	4．巻 第21輯
2．論文標題 京都・因幡堂薬師如来立像（因幡薬師）の造像背景に関する一考察	5．発行年 2017年
3．雑誌名 美學美術史論集	6．最初と最後の頁 1-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 畠山浩一	4．巻 247
2．論文標題 岩佐又兵衛の生涯	5．発行年 2016年
3．雑誌名 別冊太陽	6．最初と最後の頁 154-163
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計11件（うち招待講演　9件／うち国際学会　6件）

1．発表者名 杉本欣久
2．発表標題 小泉檀山の西遊と『檀森斎石譜』について
3．学会等名 美術史学会東支部例会
4．発表年 2019年

１．発表者名 泉武夫
２．発表標題 印度・中国・日本的弥勒信仰与美術-兜率天的菩薩像及其源流
３．学会等名 2018 年佛教美術源流国際学術研討会（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 長岡龍作
２．発表標題 清凉寺釈迦如来像の胎内に見る信仰世界
３．学会等名 名古屋大学・ハーバード大学国際ワークショップ「像内納入品研究の地平」（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 山本勉
２．発表標題 東国の運慶と京都・奈良
３．学会等名 シンポジウム 運慶と東国の宗教世界（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 長岡龍作
２．発表標題 霊験仏をつくる―頬焼阿弥陀縁起をめぐって―
３．学会等名 シンポジウム 運慶と東国の宗教世界（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 泉武夫
２．発表標題 隋・唐以降の東アジア兜率天の弥勒信仰と美術について
３．学会等名 シンポジウム　中央アジア科研全体研究会－ 中央アジアの弥勒信仰と美術 その2（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 長岡龍作
２．発表標題 Represented Landscapes in Japanese art and Its Religious Meaning
３．学会等名 Knowledge Forum, Knowledge and arts on the move: transformation of the self-aware image through East-West encounters（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 長岡龍作
２．発表標題 Buddhist Space and Its Representation in Ancient Japan: Worldview and Ideas
３．学会等名 International Symposium on Architectural Interchange in ASIA（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 長岡龍作
２．発表標題 明治初期の「美術史」―高橋由一と岡倉天心
３．学会等名 吉林大学―東北大学シンポジウム「近代日本の文化とナショナリズム」（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 長岡龍作
２．発表標題 フレームとしての寺院空間と仏像
３．学会等名 国際シンポジウム「フレームの超域文化学Ⅱ　世界認識と古典知」（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 長岡龍作
２．発表標題 仏教の礼拝空間―超越者との交感と美術
３．学会等名 美術史学会全国大会シンポジウ（招待講演）
４．発表年 2016年

〔図書〕　計10件

１．著者名 山本勉	４．発行年 2018年
２．出版社 講談社	５．総ページ数 159
３．書名 ARTBOX 切手で仏像	

１．著者名 水野敬三郎・西川杏太郎・田邉三郎助・副島弘道・山本勉・根立研介・武笠朗・岩田茂樹・奥健夫（編著）	４．発行年 2019年
２．出版社 中央公論美術出版	５．総ページ数 解説173頁、図版198頁
３．書名 『日本彫刻史基礎資料集成』鎌倉時代造像銘記篇15	

１．著者名 有賀祥隆	４．発行年 2017年
２．出版社 中央公論美術出版	５．総ページ数 472頁
３．書名 日本絵画史論攷―紺丹緑紫抄―	

１．著者名 小学館	４．発行年 2017年
２．出版社 小学館	５．総ページ数 390頁
３．書名 運慶大全	

１．著者名 長岡龍作	４．発行年 2017年
２．出版社 共同通信社	５．総ページ数 184頁
３．書名 『空海と高野山の至宝』展カタログ	

１．著者名 水野敬三郎・西川杏太郎・田邉三郎助・副島弘道・山本勉・根立研介・武笠朗・岩田茂樹・奥健夫	４．発行年 2017年
２．出版社 中央公論美術出版	５．総ページ数 解説299ページ、図版201ページ
３．書名 日本彫刻史基礎資料集成鎌倉時代造像銘記篇第13巻	

１．著者名 長岡龍作・和田律子・久下裕利・今正秀・倉田実・吉田茂・佐倉由泰・高橋由記・末松剛・加藤静子・桜井宏徳・三原まきは・諸井彩子・福家俊幸・西本寮子・有馬義貴・久保木秀夫・横溝博	４．発行年 2016年
２．出版社 武蔵野書院	５．総ページ数 474ページ
３．書名 知の挑発　平安後期　頼通文化世界を考える―成熟の行方	

１．著者名 長岡龍作・大西貴夫・時枝務・久保智康・上川通夫・菊地大樹・井上一稔・藤岡穣・藤井恵介	４．発行年 2016年
２．出版社 高志書院	５．総ページ数 371ページ
３．書名 日本の古代山寺	

１．著者名 津田徹英	４．発行年 2016年
２．出版社 竹林舎	５．総ページ数 422ページ
３．書名 仏教美術論集６　組織論―制作した人々	

１．著者名 辻惟雄・戸田浩之・印牧信明・畠山浩一・筒井忠仁・深谷大・廣海伸彦	４．発行年 2016年
２．出版社 福井県立美術館	５．総ページ数 255ページ
３．書名 『岩佐又兵衛展』図録	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	山本　勉 (Yamamoto Tsutomu) (00150037)	清泉女子大学・文学部・教授 (32632)	
研究分担者	津田　徹英 (Tsuda Tetsuei) (00321555)	青山学院大学・文学部・教授 (32601)	
研究分担者	川瀬　由照 (Kawase Yoshiteru) (00541228)	早稲田大学・文学学術院・教授 (32689)	
研究分担者	岩佐　光晴 (Iwasa Mitsuharu) (10151713)	成城大学・文芸学部・教授 (32630)	
研究分担者	武笠　朗 (Mukasa Akira) (30219844)	実践女子大学・文学部・教授 (32618)	
研究分担者	泉　武夫 (Izumi Takeo) (40168274)	東北大学・文学研究科・名誉教授 (11301)	
研究分担者	瀬谷　貴之 (Seya Takayuki) (50443411)	神奈川県立金沢文庫・学芸課・主任学芸員 (82720)	
研究分担者	三浦　敬任 (Miura Yoshihide) (60822377)	東北大学・文学研究科・助手 (11301)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	長岡　龍作 (Nagaoka Ryusaku) (70189108)	東北大学・文学研究科・教授 (11301)	
研究分担者	杉本　欣久 (Sugimoto Yoshihisa) (80463446)	東北大学・文学研究科・准教授 (11301)	
研究分担者	畠山　浩一 (Hatakeyama Kouichi) (90344639)	東北大学・文学研究科・専門研究員 (11301)	
研究分担者	浅井　和春 (Asai Kazuharu) (60132700)	青山学院大学・文学部・教授 (32601)	